河北潟流域新聞

第5号

発行：NPO法人河北潟湖沼研究所　2023年3月

河北潟流域の水辺のゴミ

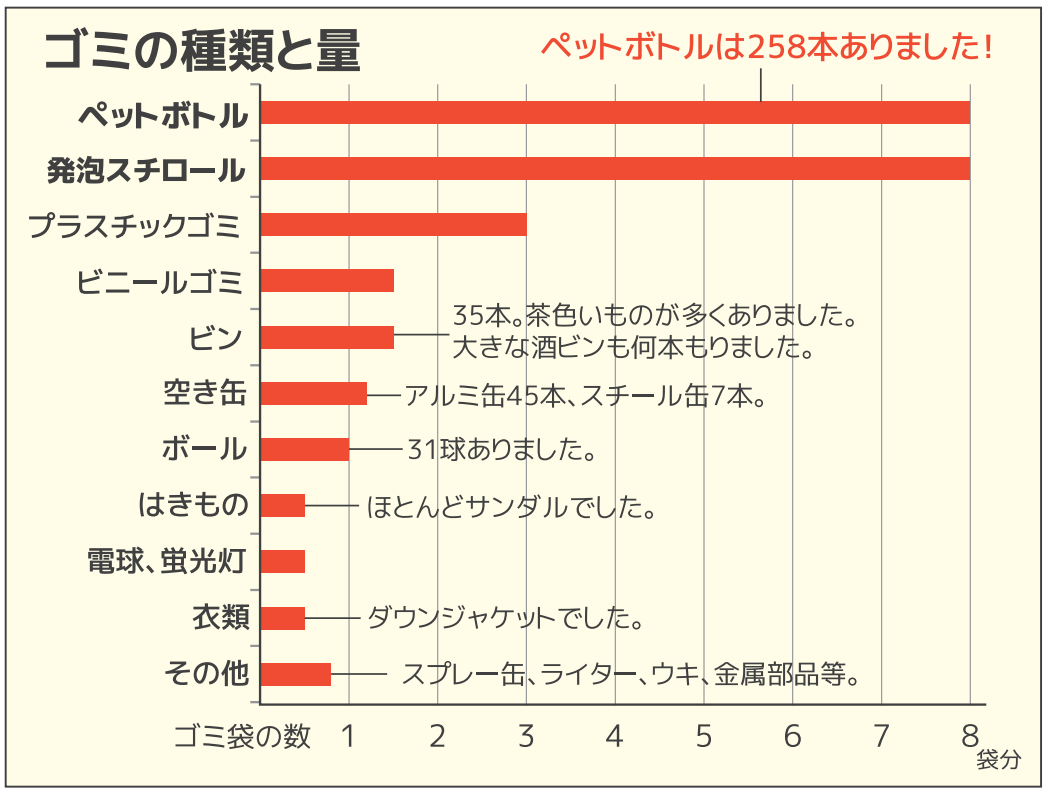
三月のある日、河北潟の湖面は静まり、遠くには白山も見え、とてもきれいな景色でした。しかし足もとを見ると、驚くほどたくさんのゴミがあります。河北潟の湖岸には、不法投棄された、あるいは流域の川から流されてきたゴミが集まり、溜まっています。地面が見えやすくなる春先には、なおさら目立ちます。

水辺はゴミが集まりやすい場所です。この状況を改善しようと、毎年春には一斉清掃活動・河北潟クリーン作戦も行われています。どこにどのようなゴミがあるのか、流域のゴミの現状や、清掃活動の取り組みについて、紹介していきます。

目次

2-3　河北潟流域のゴミの現状、流域の川から河北潟にゴミが集まる
4-5　河北潟湖岸のゴミ拾いの取り組み・河北潟クリーン作戦
　29年のあゆみ、ゴミの変遷、地点ごとの特徴 など
6　河北潟流域で活動する人のお話７～河北潟で毎日カヌー～
　河北潟カヌークラブ　岡山英一郎さん
7　河北潟流域で活動する人のお話８～チュウヒと河北潟干拓地を
　楽しみながら?見守る～　中川富男さん
8　ヤマトトックリゴミムシ　中田勝之さん
　ジュニア河北潟流域レンジャーになろう!

河北潟流域のゴミの現状



調べた日：2021 年 4 月 18 日
調べた地点：河北潟クリーン作戦 G 地点（津幡町湖北大橋付近）
調べた袋数：ゴミ袋約 29 袋分
ゴミ袋の大きさ：手提げ式で持ち手部分より下が縦 60cm、横 36.5cm、幅 13.2cm

どんなゴミが多いのか？

河北潟流域の水辺では、現在どんなゴミが多いのでしょうか。二〇二一年四月に実施された河北潟クリーン作戦で、拾われたゴミの一部を分別し、種類と量を調べました。クリーン作戦では複数の地点でゴミ拾いを実施していますが、この時は津幡町舟橋の河北潟東部承水路にかかる湖北大橋付近の地点で調べました。ここはクリーン作戦関係では、二〇二〇年に初めてゴミ拾い活動を実施し、この時が二回目でした。

湖岸には、長い時間かけてたまったゴミが大量にありました。クリーン作戦当日、この地点には四十三人の方が参加し、わずか一時間ほどのゴミ拾い活動で、ゴミ袋百袋以上のゴミが回収されました。

このうち二十九袋分を分別して、詳しく調べました。ゴミの量の比べ方にもいろいろあると思いますが、この時はゴミ袋に入れて何袋分になるか、体積で比べてみました。ペットボトルや缶など、数えやすいものは数も記録しました。

ペットボトルと発泡スチロール

結果はペットボトルと発泡スチロールが圧倒的に多く、この二つで全体の半分以上になりました。三番目に多いプラスチックゴミは食品容器や包装袋が多くあり、その他シャンプーや洗剤容器等もありました。植木鉢やバケツ等のプラ容器が砕けてしまい、元が何なのかわからなくなっている破片も多くありました。調べた中には入っていませんが、タイヤ、じゅうたん、プラスチック製のベビーバス、コンテナなどもありました。日常の小さなポイ捨てゴミと、まとめて捨てにきたであろう粗大ゴミがありました。

クリーン作戦で拾われたゴミ。わずか一時間の実施で大量のゴミが拾われます。（2021年4月18日）

ペットボトルは、分別していてうんざりするほどの多さでした。

細かくなったプラスチック

砕けたプラスチックゴミはどうなるのでしょうか。津幡漕艇競技場近くの湖岸のヨシ原で、ゴミが多い場所の土をとって調べてみました。土の中からピンセットで選り分けたゴミが一番左の写真です。細かなプラスチックゴミが大量にありました。この場所では、地表から五センチメートルほど、土の中に細かいゴミが堆積している状態でした。もしかしたら他にもこのような場所があるかもしれません。

2022年8月24日に、東部承水路湖岸で採取した土の中に入っていたゴミ。

土を採取した時の様子。

流域の川から河北潟にゴミが集まる

川を河口からさかのぼってみる

河北潟につながる川のゴミの状況はどうなっているのでしょうか。宇ノ気川、津幡川、大宮川で、河口から五キロメートルさかのぼって、ゴミの状況をみてみました。

かほく市を流れる宇ノ気川は下流部は比較的まっすぐな川で、途中ではゴミは少なめで、点在している状況でしたが、河口付近にペットボトル、缶、ゴミが入ったレジ袋、クーラーボックスやダンボール等さまざまなゴミが溜まっている場所がありました。また、河口近く、河北潟東部承水路北端部の湖岸に、ひどいゴミ溜まりができていました。宇ノ気川に捨てられたゴミは流されて、河口近くに長期間溜まっているようです。

津幡町を流れる津幡川では、川が蛇行しているところや川尻水門付近にゴミが多く見られました。また河口に一番近い橋付近の高水敷にペットボトルや空き缶、食品容器、スプレー缶、長靴等の様々なゴミが溜まっていました。

金沢市を流れる大宮川は、下流部にある「こなん水辺公園」横を流れている区間の右岸側に、大量のゴミが溜まっています。ペットボトル、食品のトレーや袋、お酒のパック、空き缶、発泡スチロール箱やその破片がずらりと並んでいました。上流へ行くと、捨てられたばかりと思われる新しいペットボトルや缶が、川を流れていく様子が見られました。また橋の近くでゴミ入りのレジ袋がいくつも見つかり、付近から捨てられているようでした。

2021 年 11 月に宇ノ気川と津幡川、2022 年 3 月に大宮川を調べました。

宇ノ気川河口付近の湖岸。一面にゴミが散乱していました。

大宮川の下流部、こなん水辺公園横の様子。川が大きくカーブする場所に大量のゴミがあります。

津幡川の川尻水門。よくゴミが溜まっています。

いずれの川でも共通していることは、次のようなことでした。

- ●町中から上流へ抜けると、ゴミはほとんど見つからない。
- ●橋の直下に食品容器、レジ袋入りのまとまったゴミよく落ちている。橋の上から捨てたと思われるゴミが多い。
- ●ペットボトルを含め食品関係のポイ捨てゴミが多い。
- ●川がカーブしている所や、植物帯にゴミが溜まりやすい。

二〇二二年の秋には、金沢市大場町の田んぼの水路も見てみました。車通りの多い道路の脇にある水路で、非常にポイ捨てゴミが多いところです。この田んぼの農家さんによると、車から投げ捨てていく人が多いそうです。水路に落ちるのはまだ良いほうで、勢いをつけて投げられると田んぼに入ることもあり、本当に困るとのことでした。

捨てる人は何度も捨てる？

水路のゴミを見ていた時、同じスーパーの袋で、持ち手を同じように結び、似たような物（色々な食品容器等）が中に入っている袋が二つ見つかりました。同じ人が、別の日に生活ごみを捨てていったのかもしれません。ゴミ収集日に収集場所にゴミをだすのではなく、この水路にゴミを捨てることが生活の一部になっている人がいるのでしょうか。他のポイ捨てゴミも、同じ場所に同じようなものが捨てられていることがあります。ゴミを捨てる人とゴミを拾う人は、はっきり分かれていて、捨てる人が何度も捨てているのではないかと感じた出来事でした。

※河北潟流域ゴミ調査の実施にあたっては、エフピコ環境基金の助成金を活用しています。

河北潟湖岸のゴミ拾いの取り組み・河北潟クリーン作戦

● 河北潟クリーン作戦とは

河北潟クリーン作戦は 1995 年から開始された河北潟湖岸での一斉ゴミ拾い活動です。近年は毎年 4 月に実施し、500 ～ 700 名程の方にご参加いただいています。

2022 年 4 月 17 日、第 28 回河北潟クリーン作戦の様子。

河北潟クリーン作戦概要（2023 年予定）

●日時　2023 年 4 月 16 日（日）9：00 ～ 10：00

●主催　河北潟クリーン作戦実行委員会

実行委員会構成団体／河北潟沿岸土地改良区、河北潟干拓土地改良区、大浦校下町会連合会、湖南地区町会連合会、河北潟ボートクラブ ア･リバーランズ、かほく市勤労者協議会、グリーン･アース農地･水･環境保全組織、津幡の水辺を守る会、北陸ランカースナイパーズ、河北潟自然再生協議会、NPO 法人河北潟湖沼研究所

●協力　河北潟環境対策期成同盟会（金沢市、かほく市、津幡町、内灘町）、 河北潟水質浄化連絡協議会

●後援　石川県

●事務局　NPO法人河北潟湖沼研究所

● 29年のあゆみ・どう活動を継続するか

河北潟クリーン作戦は現在「河北潟クリーン作戦実行委員会」が主催しています。河北潟流域で活動する団体が集まり、実行委員会を構成しています。実施にあたっては、団体や企業からの協賛をいただき、また地元行政に協力をいただいています。

活動のきっかけは、河北潟のあまりのゴミの多さを見かねたいくつかの団体が始めた、自主的なゴミ拾い活動でした。1995 年に金沢市の呼びかけにより他の市町を巻き込んだ統一したゴミ拾いが開始され、1996 年からは金沢市、かほく市、津幡町、内灘町により構成されている河北潟水質浄化連絡協議会が事務局となり実施していました。2003 年、行政からの要請により、河北潟自然再生協議会が主催となり、十数年は河北潟自然再生協議会が主催していました。この間に参加者は、初期の頃と比べ 2 倍以上に増えました。逆に団体メンバーは高齢化がすすみ、資金面での困難や、運営スタッフ数もぎりぎりであるといった実施体制の脆弱さから、活動継続が難しいという状況になり、一時はこのクリーン作戦をやめてしまおうかという話も出ていました。

継続のため、行政に主催を返還または共催とできないか、提案しましたが受け入れられませんでした。そのような中で、河北潟干拓土地改良区や河北潟沿岸土地改良区に大きな協力をいただき、2017 年からは実行委員会形式で実施をすることとなりました。2018 年より企業や団体への協賛を呼びかけ資金を募り、事務局体制を強化しつつ、現在に至っています。

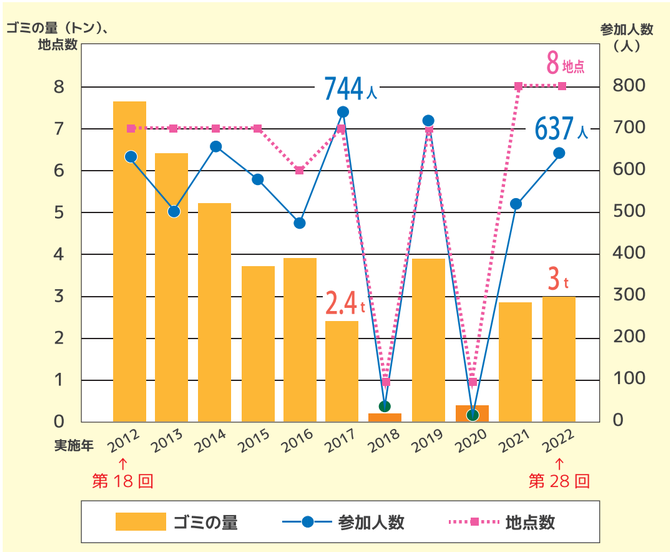
実行委員会の様子（2023 年 3 月）。

河北潟クリーン作戦の実施は一日だけですが、実施までにたくさんの準備があります。どこで実施するか、実施場所の安全確認、当日のスタッフの配置、協力してくれる行政への連絡や調整、開催告知等の広報活動、物品の準備等を行います。開催までには実行委員会を何度も開き、安全に、効果的にゴミ拾いを実施できるよう、話し合いながらすすめています。

河北潟クリーン作戦の経緯

1984年～	森の都愛鳥会による自主的な清掃活動がおこなわれる。その後、バス釣り団体等が加わる。
1995年	釣りの愛好団体、愛鳥団体等の発意のもと、「河北潟クリーン作戦」実行委員会により、本格的な統一行動が開始（第1回）。
1996年	河北潟水質浄化連絡協議会（金沢市･かほく市･津幡町･内灘町）を事務局として、毎年6月に1回のペースで河北潟クリーン作戦が実施される。
2003年～	行政からの要請により、第9回より、河北潟自然再生協議会が主催となり、河北潟水質浄化連絡協議会は協力となる。
2017年～	主催：河北潟クリーン作戦実行委員会（2月発足）となる。
2018年～	協賛企業･団体 募集開始。

● ゴミの量は減少傾向



11 年間で 39 トンのゴミ!

河北潟クリーン作戦では、拾われたゴミの内容や量を記録しています。左のグラフは、2012 年から 2022 年までの河北潟クリーン作戦の参加者数、ゴミの量、実施地点数の推移です。参加人数は減っていないのに対して、ゴミの総重量は減少傾向にあります。地点によっては、長年継続して参加いただいている方より「昔と比べるとずいぶんとゴミが減った」というお話を聞くこともあります。

正確な記録分だけを合計しても、この期間で合計約 39 トンものゴミが拾われました。地点によっては重量が正確に記録されていない場所もあるため、実際にはもっと多い量が拾われています。河北潟クリーン作戦が行われていなければ、この 39 トンものゴミがそのまま河北潟に残る、あるいは海に流れ出ていたことになります。

※ 2016 年は内灘町の判断で蓮湖渚公園付近のエリアのみ中止。
※ 2018 年は悪天候により全体としては中止、約 30 名による自主的ゴミ拾い活動実施。
※ 2020 年は新型コロナウイルスを懸念して全体 としては中止、7 名により 1 地点で自主的ゴミ拾い活動実施。

● 拾われるゴミの変遷、地点ごとの特徴

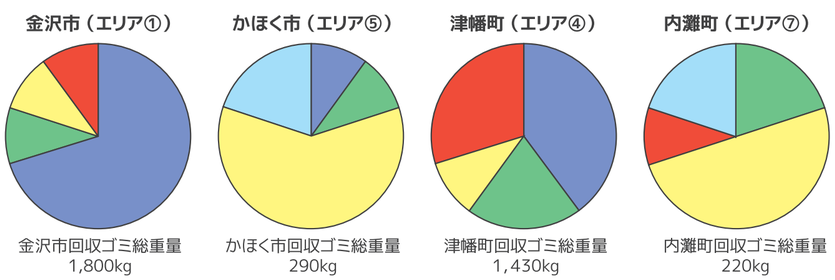
かつては **大きなゴミ（粗大ごみ、産業廃棄物）** ➡ 現在は **ポイ捨てゴミ**

河北潟のゴミは、かつては大型の不法投棄ゴミ、産業廃棄物等が多く見られました。自動車がまるごと捨てられていたこともありました。現在目立つのはポイ捨てゴミです。2-3 ページでも紹介していますが、ペットボトルはじめ食品関係のゴミが非常に多くみられます。クリーン作戦が始まって間もない頃、20 年ほど前は、ペットボトルはそんなに多くはなく、あっても 2 リットルの大きなものが多かったそうです。時代と共にゴミも変わっています。

古い型のテレビ

袋に入れられた缶やペットボトル

各地点の回収したゴミの内容（2015年河北潟クリーン作戦の記録より）



クリーン作戦は複数の地点で実施していますが、地点ごとにゴミの傾向が違います。金沢市は漂着ゴミ、津幡町は不法投棄の大型ゴミ、内灘町とかほく市はポイ捨てゴミが多く見られます。また、農業系のゴミも各地点でみられます。

河北潟流域で活動する人のお話

農業、遊び、趣味、仕事等色々な形で河北潟流域に関わる活動をしている人にお話を伺っていきます。

河北潟流域で活動する人のお話　その7

岡山英一郎さん　河北潟で毎日カヌー・楽しみながら健康作り

河北潟にかかる橋を通ると、湖面にカヌーやボートが見える事があります。河北潟は、カヌーやボートのとてもよい練習場所だそうです。岡山さんは冬期を除いてほぼ毎日、カヌーで河北潟に出ていらっしゃいます。河北潟をどのように楽しんでいるのか、お話を伺いました。

田んぼでフナをつかまえた

―ご出身はどちらでしょうか。

岡山さん　生まれたのは熊本県で、小学校二年生の時に内灘町に移り住みました。河北潟が干拓される前です。それから石川県に住んでいます。

―子どもの頃の河北潟周辺での思い出を教えてください。

岡山さん　小学生の頃、雨が降った後に田んぼへ遊びに行って、跳ねているフナをつかまえたり、水路でザリガニ釣りをしたり、釣り竿にミミズをつけて魚釣りをしたりして遊んでいました。内灘町粟ヶ崎のあたりです。増水した翌日の田んぼには、三〇センチメートルくらい大きなフナが取り残されていて、それを捕まえていました。とったフナを母に料理してもらい、食べたこともありました。

岡山英一郎さん：河北潟カヌークラブ。
岡山さんのブログはこちら
●エイの早朝カタヤッキング
http://seakayak.sblo.jp/

カヌーとの出会い

―カヌーを始めたきっかけは？

岡山さん　三十代後半に、旅行で行った沖縄県の西表島に、カヌー体験をしているお店があり、そこで乗ったのが最初です。仲間川という汽水の川で、河口から上流の行き止まりになる所まで行き、戻ってくるというものです。乗り方を教えてもらうと、大きな樽のようなボトル入りの水と、お昼のおにぎりを渡されて、「がんばってね！いってらっしゃい！」と一人で送り出されました。初めての人を一人で行かせるという、おおらかなところで、いきなり冒険のような感じでした。上流までいくと、浅瀬にミナミコメツキガニがたくさんいて、カワセミやアカショウビンなどの鳥も見られました。カワセミは、私が上流へ行くのに合わせて、少しずつ先へと飛んで行って、まるで案内してくれているようで、とても可愛らしかったです。カヌーは、こんなふうに生きものの近くで遊べる楽しさもあるのだな、と感じました。

その旅行から帰ってしばらくして、自分用のカヌーを買い、手取川で開催されていたカヌー教室を見つけ、そこに通って、技術や状況判断の仕方などを教えてもらいました。

津幡川・カヌーでゴミ拾い

―河北潟流域でカヌーに乗り始めたのはいつからでしょうか。

岡山さん　二〇〇二年から六年ほど、毎年秋に、津幡川でカヌーに乗ってゴミ拾いをするという活動をしていました。もっと水辺をきれいにしたい、という思いがありました。津幡川は町中で蛇行している所や、川尻水門にゴミがよくたまっています。津幡高校近くに、カヌーを川におろせる場所があり、そこから川尻水門まで、カヌーでゴミ拾いをしていました。

河北潟・カヌーで健康作り

岡山さん　河北潟では十年前から毎朝、カヌーに乗るようになりました。きっかけは、健康作りです。好きな運動で、生活習慣病予防ができればいいなと、年間百回以上は河北潟に出て、一〇〇〇キロメートルは漕いでいます。それぐらいの頻度で漕ぐと、生活習慣病の予防効果も大きいです。おかげさまでお腹も出てこず、動きやすい身体を保っています。

―河北潟の魅力はどんなところですか？

岡山さん　静かなところですね。静かで波が立たない事は、ボートもカヌーもとても練習しやすいです。それから時々、水鳥とも出会って癒されます。癒されながら練習できるのはいいですね。

―毎年「河北潟自然再生まつり」でカヌー体験を実施していただいていますが、他にも体験イベントを実施していますね。

岡山さん　宇ノ気水辺公園や津幡漕艇競技場等で、年二回、子ども向けのカヌー体験イベントをしています。八年程実施していますが、カヌーで転んだ子どもは一人だけです。子どもは重心が低く、安定しているので転びにくいのです。よく転ぶのは大人の男性です。腕力があるため、少し操作を誤るとすぐに転んでしまいます。カヌーは力を入れすぎると不安定になります。でも転んだ人も楽しんでくれています。

最初は河北潟でカヌーをしているのは私一人だったのですが、仲間が少しずつ増えてきました。仲間の一人は、私のブログでカヌーの記事を見て、カヌーを始めました。また別の一人は、河北潟でボートの練習中、私がカヌーを漕いでいるのを見て、自分も漕ぎたくなってカヌーも漕ぐようになった、という人です。カヌー体験をする時も、その仲間が駆けつけてくれます。

一緒にカヌーをしよう

岡山さん　今年、仲間と「河北潟カヌークラブ」を作りました。土日の午前に津幡漕艇競技場で練習しています。これまでは一人でやってきたことも多かったのですが、これからはこのクラブとして、カヌーの練習や、色々な河北潟の活動にも関わっていきたいと思っています。

カヌーは楽しく運動ができるので、これから始めたいという方、ぜひ一緒にやりましょう。見学も歓迎です。ブログやフェイスブックで連絡をいただければ、練習日をお知らせします。

漕艇競技場が、もう少し誰でも気軽にカヌーやボートを漕いで、湖面を散歩できるような環境になればいいなと思います。健康にもいいですからね。

（聞き書き・番匠尚子／河北潟湖沼研究所）

2002 年の津幡川カヌーでのゴミ拾い。4 人で大きなカヌー 2 杯分程のゴミを拾いました。大体このくらいは毎回とれたそうです。（写真提供：岡山英一郎さん）

岡山さんにご協力いただき、2022 年 9 月に河北潟湖沼研究所が実施した河北潟カヌー体験・ゴミ拾いの様子。

河北潟流域で活動する人のお話　その8

中川富男さん　チュウヒとヨシ原・河北潟干拓地を楽しみながら？見守る

中川富男さん：1950年生まれ。
石川県希少種保全推進員（チュウヒ、イソコモリグモ担当）／山階鳥類研究所協力調査員

河北潟には「チュウヒ」というタカの仲間がいます。もともと日本では北海道で繁殖していると図鑑に書かれていた鳥ですが、河北潟干拓地ができ、本州で初めて繁殖が確認されました。初めて確認したグループにいたのが中川さんです。チュウヒのことや干拓地のことについて、お話を伺いました。

―子どもの頃から生きもの好きだったのでしょうか。

中川さん　虫や花等が好きでした。小学校五年か六年の頃、当時は津幡に住んでいたのですが、鳥の図鑑に巣から落ちたスズメの雛を保護した時の育て方が載っていました。でも雛はそう落ちていないので、屋根で繁殖中のスズメの巣から雛を一羽捕ってきて、育てる真似事をして、死なせてしまっていました。悪いことをしたと思っています。川でとったメダカをロウソクの火で焼いて食べたこともありました。真っ黒焦げで、苦くておいしくありませんでした。その後、高松に引っ越したのですが、引っ越し先が町中で、川が遠くなり、家の周りでコウモリやハエトリグモ等を見ていました。当時三五〇円の昆虫の図鑑、理科の図鑑、鳥類の図鑑という三冊の図鑑を、お小遣いで買って読んでいました。鳥類の図鑑が一番ボロボロになっています。

―どのようにして鳥を見るようになったのしょうか。

中川さん　図鑑に、鳥を見る時は双眼鏡でと書いてあり、欲しかったのですが高くて買えず、一八才頃、お小遣いをためて一万円ちょっとの双眼鏡を買いました。でもその時は、人前で双眼鏡を使って鳥を見ることが恥ずかしかったんです。二〇才頃は鳥も見ていたのですが、主に双眼鏡を使っていたのは、鈴鹿サーキットとか富士スピードウェイ。レースを見ていました。双眼鏡で見ると、ドライバーのハンドリングとかがよく見えました。

一九七二年に、はじめて河北潟の水田にコハクチョウを見に行きました。何度か見に行っていたら、鳥を見るグループの方に出会い、誘われて石川野鳥の会に入りました。鳥の話をしていると楽しかったです。一九七三年には望遠鏡を買いました。それまで野鳥観察は双眼鏡で見て、鳴き声を聞くだけだったのが、私たちの世代になって望遠鏡で見るようになりました。東京あたりでは一九六〇年代後半あたりに流行っていたのではないでしょうか。もともとはアーチェリーで的のどこに矢が当たったかを確認するための望遠鏡でした。それが鳥を見る人たちがシギやチドリを見るために、あれは便利だということで広がっていきました。

チュウヒとの出会い

―チュウヒに出会ったのはいつですか。

中川さん　一九七三年から河北潟にどっぷりとつかるようになったのですが、その年の七月頃、チュウヒの若鳥らしいものが見つかりました。チュウヒだという事はわかったのですが、幼鳥かどうかもわからず、仲間たちと議論していました。羽が全部揃っていてきれいだから、あれは幼鳥ではないか、とか。その頃の図鑑は種類も少なく中身も十分ではなかったので、図鑑を見てもわかりませんでした。

翌年、みんなで巣を探しました。私は仕事柄日中に時間をとれたので、かなりの時間、干拓地へ通い下見をしました。そしてあの辺に巣がある、という場所に検討をつけ、日曜日に仲間と四人でその場所へ探しに入りました。ところがヨシが密生していて、探しても見つけられませんでした。その日はあきらめ翌日からまた下見をし、木曜日に一人で入って、雛が三羽いる巣を見つけました。次の日曜日、今度はみんなで確認できました。その後はチュウヒをずっと見ています。

―河北潟や河北潟干拓地を見てきた中で、印象に残っていることはありますか。

中川さん　色々ありますが、一九七九年頃のドブネズミの大量発生もその一つです。日中からたくさん見られ、日没直後に立っていると、股の下にある地割れを通り抜けていくこともありました。一九七九年、チュウヒの巣の中の餌は、ほとんどドブネズミでした。また一九八〇年代初め頃、干拓地を畑化する時、ブルドーザーの後ろに鋤をつけて、ヨシ原を掘り起こしていたのですが、チュウヒの巣がある所にブルドーザーが入りそうになったことがありました。北陸農政局へ行きお願いをしたら、繁殖が終わるまで作業を待ってくれたこともありました。

ヨシ原とチュウヒと人

中川さん　当初チュウヒの繁殖場所はすべて干拓地でしたが、畑化されてから河北潟の水辺のヨシ原で繁殖するようになりました。ただ昔のような生息数は、今はありません。繁殖場所となるヨシ原が衰退してきているからです。津幡漕艇競技場や津幡川河口の辺りはある程度面積がありますが、ここ数年は繁殖に失敗しています。漕艇競技場から出たボートやカヌーが、すーっと通り過ぎるだけならそんなに影響はないのですが、複数人が乗るボートがヨシ原の縁にとめて話していたりすると、影響はあると思います。河北潟湖面利用協議会では初期の頃、漕艇競技場の関係者も来てくれていました。その時に津幡川方向はできるだけ避けてほしいと言ったら、練習でそちらに行く回数を減らしてくれました。バス釣りのボートの人等も配慮してくれています。ただ中には県外から来て、ルールを守らなかったり、知らなかったりする人もいます。湖面を利用する人には、「河北潟湖面利用ルール」を知って、守っていただくことを願います。

鳥の事ばかりも言っていられないとは思いますが、畑やハス田の周辺部に、できるだけ除草剤等を使わない草むらを少し残してくれたらな、と思います。

―野鳥観察で気を付けることは？

中川さん　繁殖期の鳥の撮影は、特に気を付けて距離を置いてもらいたいです。親がエサを持って巣の近くまで来ても、近くに人がいると警戒して巣に戻るまで時間がかかり、雛が一日でもらえる餌の量が減って、巣立ち雛の数が減ったり、途中で失敗することもあります。撮影する人のマナーがひどい場合には、注意をすることもあります。嫌われますが、しないわけにもいきません。マナーを守って観察を楽しんでもらいたいと思います。

（聞き書き・番匠尚子／河北潟湖沼研究所）

チュウヒ（写真提供：中川富男さん）。

中川さんは、たくさんの自然観察会で講師もされています。

※河北潟湖面利用ルール・・・河北潟を利用する関係者の話し合いによってつくられたルールです。
2010年に策定されました。詳しくは河北潟流域新聞第3号8ページでも紹介しています。

「ゴミムシ」という名前の虫のお話

ヤマトトックリゴミムシ

文と写真　中田勝之
（日本昆虫学会会員）

全体としてゴミをテーマとする本号に相応しい「ゴミムシ」という小さな虫の話題です。

体長約1センチメートルで北海道を除く日本全土の湿地や水田周辺に生活し、石川県内でも広く採集されているヤマトトックリゴミムシの生態をお話いたします。本種は、これまで河北潟で記録されていないようで、筆者も採集したことはありませんでした。

二〇二三年三月上旬の午後、河北潟干拓地内での昆虫採集の際、立ち枯れたニセアカシアの樹皮を剥がすと、ピョンと一匹の黒い虫が飛び出します。ひと目でトックリゴミムシの仲間と分かりました。種名までは分からないものの、トックリゴミムシの仲間は初採集であり、嬉しさのあまりガッツポーズ。

帰宅後に図鑑や文献を探すと、胸の一部や肢が赤褐色などの特徴から、ヤマトトックリゴミムシで間違いないはず。また、本種の幼虫が水田周辺で水稲を食害するニカメイガ幼虫を捕食することや、弥生時代の水田地層から、イネネクイハムシなどの害虫とともに本種の化石が数多く見つかるという報告もありました。

ちなみにトックリゴミムシ類は、樹皮下などで越冬した成虫が、春先に湿地や水田周辺で産卵を行った後、初夏に新成虫が現れて世代交代となります。

さて、河北潟のヤマトトックリゴミムシに目を向けると、弥生の時代以前は潟の周りで細々と暮らし、古の人々が稲作を始めてからは、本人（虫）の意向ではないものの害虫になってしまった虫たちを捕食することで、分布を広げたのでしょう。その後、干拓地内にも生活環境を広げ、そこに根付いたニセアカシアで越冬するなど、人間の営みに翻弄されつつも環境の変化に順応する逞しさを感じます。

我々の生活環境も日々変化し、右往左往することもありますが、逞しいヤマトトックリゴミムシの姿を想像すると、この小さいムシに負けないよう元気に過ごしていきたいものですね。

最後に、左の写真は今回採集した標本ですが、近年図鑑類では当たり前となった「深度合成」という手法で撮影しています。この手法は厚みのある虫などを撮影する際、その厚みに応じてピントをずらしながら複数枚撮影した後、ピントの合った部分を電子的に合成します。この手法により、触角の先端から肢先までピントのあった写真となります。今回は五十三枚を合成しました。

ヤマトトックリゴミムシ
（写真：中田勝之）

8単位取得で認定！バッジももらえる！

こまっている生きものたちを守る ジュニア河北潟流域レンジャーになろう！

生きものたちのために、学び、体験しながら環境を守るプログラムに参加しませんか？

「ジュニア河北潟流域レンジャー」プログラムは、河北潟流域の自然をまるごと体験する場を提供するとともに、生きものの調査や生きものを守る活動を進めます。河北潟の自然のおもしろさや大切さを知る機会が少なくなっている現在、河北潟大好きっ子が増え、水のつながり、生きものつながり、自然環境の問題に気づくことのできる感性豊かな人が育くまれていくことを目的としています。

各プログラムに参加し、八単位以上取得すると、「ジュニア河北潟流域レンジャー」に認定され、賞状と認定バッジがもらえます。二〇二三年は次のようなプログラムを実施予定です。

- ハッタミミズの田んぼ作り
- 田と水路をつなぐ魚道づくり
- 川に入って生きものしらべ
- 昔ながらの米作り体験
- 田んぼの生きもの調査
- 河北潟カヌー体験・ゴミ拾い
- 河北潟自然再生まつり（認定式）

日程等、詳しくは河北潟湖沼研究所ホームページをご覧ください。大人もご参加いただけます。みなさまのご参加お待ちしております。

6ページに登場した岡山さんにもご協力いただいたカヌー体験・ゴミ拾いの様子（2022年9月）

川の生きもの調べ
（2022年8月）

田んぼの生きもの調査
（2022年7月）

やってみよう 河北潟クイズ

https://kahokugatalake.sakura.ne.jp/quiz/

河北潟の環境や生きもの、水や植物等について、クイズ形式で学ぶことができます。全7編あり、すべてクリアで流域レンジャー1単位認定となります。

河北潟流域新聞を一緒に作りませんか？

この紙面をいっしょにつくって下さる方を募集しています。河北潟流域の自然環境、環境問題、自然と人との関わり、生きもの、植物、昔の暮らし等にご興味がある方、ぜひご参加ください。特別な技術や知識等は必要ありません。活動日時等は相談して決めていきます。ご興味がございましたら、河北潟湖沼研究所までお問い合わせください。

ご感想やご意見お待ちしております

河北潟流域新聞　第5号　2023年3月発行　制作：NPO法人河北潟湖沼研究所
〒929-0342石川県河北郡津幡町字北中条ナ9-9　E-Mail：info@kahokugata.sakura.ne.jp

＊活動やイベント情報も発信しています。

河北潟湖沼研究所ホームページ　Instagram　twitter　Facebook　河北潟流域ウェブサイト

独立行政法人環境再生保全機構地球環境基金の助成を受けて制作しました。